

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 後藤隆徳

年月日 平日＝2011年5月26日（木・晴）
休日＝2011年5月29日（木・台風中止）

回数 2010期・第13回平日巡礼
2011期・第1回平日巡礼

参加者 21名

巡礼寺・順 ●八十八番札所 修禅寺（しゅぜんじ）

- * 本尊・大日如来（重要文化財）
- * ご本尊真言 おん あびら うんけん ばざら だとばん
- * 山号・肖廬山 * 曹洞宗 * 草創・807（大同二年）
- * 弘法大師を開基とし創建する、真言宗に473年属し、1275-78（建治年中）臨濟宗となり214年その後衰退し、1489（延徳元年）再興、曹洞宗として500有余年、現在に至る。
- * 弘法大師が18歳の時に修行した、桂谷の山寺（現在修禅寺奥の院、正覚院）はすぐ近くです
- * 水屋の手水は温泉です。

●一番札所 嶺松院（れいしょういん）

- * 本尊・聖観世音菩薩
- * ご本尊真言 おん あろりきゃ そわか
- * 山号・観富山
- * 曹洞宗（最勝院末）
- * 草創・806～810（大同年間）
- * 寺伝によると
大同年間（806-810）弘法大師が巡錫の途次、多くの村人が難病で苦しむのを見て
ここに薬師三尊（薬師如来、日光菩薩、月光菩薩）
十二神将（薬師如来の護法神）を勧請
真言秘法百万遍を修法し村人を救ったという

●二番札所 弘道寺（こうどうじ）

- * ご本尊真言 おん あろりきや そわか
- * 本尊・聖観世音菩薩 * 山号・天城山
- * 宗派・曹洞宗（最勝院 末）
- * 草創・1555-1558（弘治年間）
- * 1857（安政4年）初代アメリカ総領事のタウンセントハリス一行36人が江戸へ出府の途中 宿泊した
その当時の調度品が寺宝として保管されてます。

| | |
|------|---|
| 距離 | 約8.5 Km + 3.1 Km + 4 Km + 8 Km = 約23.6 Km |
| タイム | 下土狩5:45 - 観光会館発6:50 - 修禅寺7:00 ~ 15 - 嶺松院 9:15 ~ 9:40 - 弘道寺10:20 ~ 11:00 - 国土峠12:00 - バスワサビ店「たか惣」12:10 ~ 13:15 - バス - 国土峠 発13:25 - ワサビ店「たか惣」14:05 - 貴僧坊・水神社14:35 - 戸倉野・タマゴ屋さん15:20 - 長岡温泉・光琳 |
| 温泉 | 長岡温泉「光琳」平日 = 700 - （さらに団体割引あり） |
| 経費 | 嶺松院 = 1000 -、弘道寺 = 1000 - |
| 参考資料 | 「伊豆霊場振興会」HP |

2009年から2年間続いた第2回巡礼は4月で終了。そして、5月から、また新しい仲間と心新たに巡礼が始まった。

今回は八十八番札所・修禅寺がスタート。2年前の18日は弘法大師の入滅日で、境内で市が開かれていた。中に懐かしい「イナゴ佃煮」があった。その時、帰りの温泉の楽しみに一パック購入した思い出がある。

まず、2年後全員無事ここに帰ることを祈念し初お勤め。26日（木）は晴天だったが、29日（日）は何と5月の台風で中止になってしまった。

寺から桂川を渡る。今まで気づかなかったが、ここに正ハリスト教会がある。明治45年落成。函館をはじめ、当時日本各地で、このような教会が出来たようだ。温泉場南からR136を南下する。

良い天気ですわやかな気持ち良い朝。越路トンネルを潜り宮田橋を渡り、対岸の旧道に行く。狩野川は既に「鮎解禁」で、多くの釣り人が竿を伸ばしていた。旧道は狭い。丁度、出勤時間で車の往来が激しい。スピードを出して来る車が怖い。

今回から菅笠・白衣・杖を揃えた。なかなか決まっている。この先で以前巡



正ハリスト教会跡



狩野川鮎解
禁

札に参加していた沼津のYさんに会った。鮎釣りに来たようだ。ゆっくりのんびり2時間歩き、いささか疲れがみえた頃、ようやく一番札所・嶺松院に到着。まず、右手奥で有料50円のトイレを済ませ、ご朱印をお願いします。嶺松院は小さなお寺。お勤めは外で行う。鈴木範良住職(84?)のお話を頂いた。

嶺松院は一番札所で巡礼最初のお寺。つまり発心寺である。「発心」とは・・

「悟りを得ようとする心を起こすこと。菩提心(ぼだいしん)を起こすこと。仏門に入ること」
「発菩提心(ほつぼだいしん)の略。仏陀(ぶつだ)の悟り(菩提)を得ようとする心をおこすこと。求道(ぐどう)の念をおこすこと。仏道修行の開始は、この発心にあるといわれ、その第一歩を踏み出す心意気をいう。(関連HPから転載)

また、今日この出会い。ご縁を大切にしたい。そして、仏様に手を合わせることは、様々なことに「感謝」の気持ちを表すこと。また、「6日の菖蒲、10日の菊」の有り難い言葉をいただき、二番札所に向かう。

湯ヶ島の二番札所・弘道寺までは3Kmと短い、ダラダラ上っているのに距離のわりに苦しい。

ここは作家・井上靖の生誕地で、小説「しろばんば」の舞台。道々に「しろばんば」主人公、洪作少年が関わる場所に説明看板があった。

R136から旧道に入り少しで寺着。由緒あるお寺で門構えは立派。本堂に



鈴木住職



上がりお勤めを済ませ、山居（やまい）英明（56）住職のお話を聞く。

お寺の歴史が中心。江戸時代ハリス一行が宿泊した話。襖の達磨絵は、伊東市で願行寺を建立し住職になられた、劇画家・牛次郎氏が描いたと教えてくれた。迫力ある、いい達磨絵だった。

ここでお茶・お饅頭のお接待を受けた。住職も奥様も感じの良い方で、有り難かった。息子さんは現在、石原裕次郎菩提寺の鶴見・総持寺で修行中だそうです。時間があれば本堂でゆっくり「昼寝」をしたいところでしたが、...

三番札所・最勝院に向かう。ここから、最勝院まで15Kmある。ただ、



弘道寺と山居住職





お接待を受ける
暑い日は熱いお茶
が美味しい

しおりにそれを正直に掲載すると、参加者の腰が引けるので、控えめに10Kmと記した。しかも、そこには標高510mの国士峠越えが含まれる。巡礼1回目にして大きな試練。

ただ今日は涼しかった。ひと月にここを2回も越える私は一体何??である。しかし、面白いことに回数を数える程、楽に感じるのは「修行」の成果だろうか??。

毎日富士登山、毎日谷川岳登山をする方を知っている。同じ登山家として、大変だろうな～、厳しいだろうな～と思うが、やっている本人は案外そうでもないのかも知れない。要は「心構え」である。

ここの上りは約1時間。峠で丁度12:00。バスで筏場（いかだば）のワサビ店「たか惣」まで下り昼食。好天なのでテラスを借りる。

ここの「ワサビアイス」は、店のお母さんが本物のワサビを添えてくれる。ピリピリと刺激的で疲れた体に効果大です。



「たか惣」のテラスで昼食

本物ワサビとアイス



筏場から三番札所・最勝院まではズ〜と長い下りが続く。途中、「貴僧坊（きそうぼう）水神社」に寄る。この辺りは天城連山の湧水が豊かな所。ワサビ田があり湧水は飲める。ワサビ田を一周する。ワサビの花が咲いていたので、何本か頂いた。帰宅し「三杯酢」で食したが、とても美味しかった。

貴僧坊神社
ワサビ田



最勝院に向かう。寺まで行けば行けそうだったが、今回は初巡礼で疲れた方もいたので無理をせず、戸倉野の「タマゴ屋」でおしまい。ここでの買い物を楽しみにしていたが、女主人が今夜通夜とかで、早じまいだった。

従業員的女性がいた。話をすると何と鮎壺出身の方で、サポーターのAさんの同級生だった。今日のお風呂は長岡温泉・光琳。安くて良かった。

二番札所
弘道寺

